



# リレー・フォー・ライフ・ジャパン 2025 レポート



主催

公益財団法人 日本対がん協会  
リレー・フォー・ライフ・ジャパン実行委員会



## 2025年度のリレー・フォー・ライフ活動を終えて

がん患者とそのご家族を支援し、地域社会全体でがん征圧を目指して年間を通じて行われるチャリティ活動、リレー・フォー・ライフ（以下RFL）。RFLは、サバイバーさん、ケアギバーと呼ばれるご家族、ご遺族、そして支援者のみなさんが「希望（HOPE）」を胸に集い、互いのストーリーに耳を傾け、「変えたい」という想いを分かち合う大切な場所です。

2025年は、山形県鶴岡市、茨城県つくば市、岐阜県大垣市の3か所で新規開催を迎え、北海道から沖縄まで全国51会場にHOPEの灯がともりました。参加されたみなさんは、大切な人と集い、語り合い、再び会えた喜びを噛みしめる——そんなかけがえのない時間を共有しました。

本冊子には、2025年に活動された各実行委員会の歩みと、RFLに込めた想いが綴られています。ぜひすべての投稿に目を通していただき、RFLの温かさや地域の絆、そして「ひとりじゃない」というメッセージを感じていただければ幸いです。

また、セルフウォークリレーは6年目を迎え、会場に足を運ぶことが難しい方々も、全国どこからでも参加できる新たな支援の形として定着しました。今年は計39団体が独自のイベントを立ち上げ、4,260人ががん患者支援への想いを胸に歩き、その歩数は7億2,092万歩を超えました。一步一步に込められた想いが、確かに希望へとつながっています。

がんになっても安心して暮らし、安心して治療を受けられる社会の実現に向け、これからも多くの方にRFLへご参加いただけることを心より願っています。

最後に、活動を支え続けてくださったボランティアの実行委員会および関係者の皆様、ナショナルスポンサー様をはじめとする企業・団体の皆様、そして参加し、歩き、寄付を寄せてくださったすべての皆様に、深く感謝申し上げます。

2026年度、RFLは日本での活動開始から20周年という大きな節目を迎えます。これまで紡がれてきた無数の想いと歩みへの感謝を胸に、「命を繋ぎ 希望を灯す リレーの力」を合言葉として、ひとりでも多くの方に希望が届く未来へ、これからも歩みをつないでまいります。

このリレーが、誰かの心にそっと灯をともし存在であり続けられるよう、今後とも変わらぬご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。



公益財団法人 日本対がん協会  
リレー・フォー・ライフ  
チーム一同

是澤聡子	(RFL マネジャー)
阿蘇敏之	(RFL アシスタントマネジャー)
松島順子	(RFL 担当)
郷州葉子	(RFL 担当)
渡邊絢夏	(RFL 担当)
堀切園恵美	(RFL 担当)
平野登志雄	(スタッフパートナー)
時森由佳	(スタッフパートナー)

## リレー・フォー・ライフとは

がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがん向き合い、  
がん征圧を目指します。1年を通じて取り組むチャリティ活動です。

1985年、一人の医師がトラックを24時間走り続け、アメリカ対がん協会への寄付を募りました。「がん患者は24時間、がん向き合っている」という想いを共有し支援するためでした。共に歩き、語らうことで生きる勇気と希望を生み出したいというこの活動を代表するイベントは、現在世界37か国で活動、約1,700か所で開催され、年間寄付は約134億円となります。

リレー・フォー・ライフ活動の締めくくりとしてウォークイベントが開催されます。会場ではチームの仲間とタスキをつなぎ、がん征圧を願い歩きます。

## RELAY FOR LIFEの使命と3つのテーマ Save Lives セーブライブズ

祝う

Celebrate

がんの告知を乗り越え、今を生きているサバイバーや家族などの支援者を讃え、祝福します。

しのぶ

Remember

がんで旅立った愛する人をしのび追悼します。また病の痛みや悲しみと向き合っている人たちを敬います。

立ち向かう

Fight Back

がんの予防や検診を啓発し、征圧のための寄付を募り、  
がんで苦しむ人や悲しむ人をなくす社会をつくります。

3つのテーマに支えられ、使命である Save Lives が成り立っています

## ロゴについて



リレー・フォー・ライフのロゴは、太陽と月と星をかたどった世界共通のもので。

それは昼夜を問わず、がんという病に立ち向かう世界中の数えきれない人々の勇気とリレー参加者への絶え間ないサポートを象徴しています。いつの日かがんで悩むことのない社会が訪れるという希望の星をかかげ、輝く太陽の下、降りそそぐ月の光の中で参加者が一丸となって共に病に立ち向かう。

リレー・フォー・ライフのロゴには、そんな思いが込められています。



# 寄付の使い途

リレー・フォー・ライフで寄せられた寄付金は、公益財団法人 日本対がん協会を通じて、下記のような支援に充てられています。

## ▶ リレーイベント

年間活動の締めくくりです。チームの仲間と会場でタスキをつなぎ歩いたり、キャンドルライトセレモニー「ルミナリエ」をおこないます。



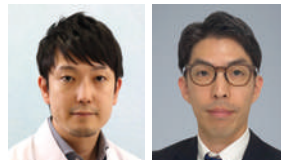
## ▶ プロジェクト未来



がんの新しい治療法や新薬開発、患者のQOL改善に向けた研究に寄付金が活用されています。2025年度は31名の研究者に助成金が贈られました。

## ▶ 若手医師育成(マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞)

がん医療を深く学びたい若手医師育成のため、海外留学研修費用の一部を助成する取り組みです。米国の研究施設での研修が、日本のがん医療発展につながることを期待して設立されました。2024年度の実賞者は2名で、落合先生はMDアンダーソンがんセンター、加藤先生はハワイ大学にて研修を受けています。ハワイ大学への派遣は今年度が初となります。



加藤智敬さん 落合健太郎さん

## RFL「プロジェクト未来」研究助成 研究者のコメント



清水 重臣さん  
(2012～14年採択  
助成金額:計600万円)

2012～14年度に「オートファジー細胞死を標的とした新規抗癌剤の開発」をテーマとして、リレー・フォー・ライフより研究を助成して頂きました。当時開発していた化合物は、残念ながら、抗がん剤としての実用化には至っておりません。しかし、本研究を深化させる過程で、オートファジーに類似した新規タンパク質分解機構Golgi membrane-associated degradation (GOMED) を発見し、その成果をNature誌に発表致しました。さらに本機構が、がんのみならず、神経変性疾患や糖尿病など多様な疾患に関与することを見出しております。現在は、詳細な分子機構の理解を基盤として、より洗練された抗がん剤の開発に取り組んでおります。ご支援いただき、心より感謝申し上げます。

## RFLマイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞 受賞者のコメント



原尾 美智子さん  
(2011年受賞)

第2回MOD奨励賞をいただき、米国MDアンダーソンがんセンターへ留学いたしました。現地では、一つの目標に向かって臨床医と研究者が熱い議論を交わし、新たな治療法を切り拓く姿に圧倒されました。「目の前の患者さんを救いたい」という純粋な情熱と努力が、次世代の治療を生み出すのだと身をもって学び、チーム医療の重要性を強く実感しました。当時学んだ「研究と臨床を繋ぐ重要性」や世界中の仲間との絆は、帰国後、乳がん治療に携わる私の大きな財産となっています。皆様の温かなご寄付が、がん治療の未来を創る大きな力となります。これからもこの活動が続き、がんの苦しみなくなる世の中になるよう、心より願っております。

## ▶ がん検診受診率アップ



ポスターやパンフレットを制作・活用し受診を呼びかけます。支部と連動したリレー会場における検診車の手配や、セミナーなどの啓発活動もおこなっています。

## ▶ がんの悩み相談



看護師・社会福祉士などによる電話相談を実施しています。患者さんだけでなくご家族やご友人、がんに関する心配や不安がある方なら、どなたでも無料でご利用いただけます。

## がん相談 ホットライン

☎ 03-3541-7830  
予約不要

毎日(年末年始を除く)  
10～13時、15～18時

※受付日時は変更になる  
場合があります。  
日本対がん協会ホームページで  
ご確認ください。



北見知美氏  
相談支援室・  
マネジャー

がんの疑いが生じた時、診断時、治療中、経過観察中、治療終了後など、お電話くださる方の状況は様々です。でも、どのような状況の方でも不安を抱えて電話をかけてこられることは共通していると感じます。また、気持ちを聞いてほしい、病気とどう向き合えばよいのか分からない、つらさを分かてほしいというお電話も沢山いただきます。ホットラインではかけてこられた方の話にじっくり耳を傾けることを大切にしています。そして、気持ちや考えの整理を手伝いながらこれからのことを一緒に考えていきます。そうすることで、かけてこられた方自身が自分の考えや気持ちに気が付いていくこともあります。不安がある時は一人で抱え込まずにご利用ください。「あなたの力になりたい」そう思っています。

## Global Heroes of Hope のご紹介

「ヒーローズ・オブ・ホープ(希望のヒーロー)」は、アメリカ対がん協会(ACS)から認定される名誉あるアワード。サバイバー、ケアギバーの代表として、リレー・フォー・ライフに参加する各国から選ばれます。国内では2010年から日本対がん協会が推薦。協会とともにがん征圧を訴えていくとともに、ご自身のがん体験をさまざまな機会でも共有し、RFLを広めていく活動の先頭に立っていただいています。

## 2025年認定 'Global Heroes of Hope'



濱端 光恵さん  
(RFLみやぎ:  
サバイバー)



石塚 紀明さん  
(RFLにいがた:  
ケアギバー)



菊地 恵美子さん  
(RFLちば:  
サバイバー)

# RFLセルフウォークリレー2025

## がんサバイバー支援を胸に4,260人が参加、7億2,092万歩を歩む

参加者が好きな時に好きな場所で歩いた歩数をスマートフォンアプリに記録し、参加費と歩数に応じた金額が寄付されるオンラインチャリティイベントです。コロナ禍をきっかけにRFLの在り方も変化し、会場でのリレーイベントに参加したくてもできなかった多くの方々が、全国どこからでも歩くことで支援に参加できる新たな形の活動として定着しました。



今年で6年目を迎え、協会本部と24実行委員会は6月から11月まで、14企業は7月から2026年1月まで実施しました。期間は1日から1か月と様々でしたが、合計4,260人の皆さまにご参加いただき、その歩みは7億2,092万歩にのびりました。各団体の取り組みや想いは、ホームページやSNSを通じて発信されました。

上記39イベントの寄付は716万円。それに特別協賛13企業によるマッチング寄付716万円を合わせた総額1,432万円が今年のセルフウォークリレーの結果でした。お預かりしたご寄付は、日本対がん協会が運営する「がん相談ホットライン」3,580件の相談対応に大切に活用されます。ご参加・ご支援くださったすべての皆さまに心より感謝申し上げます。今後も誰もが参加しやすいRFL活動の一つとして継続してまいります。

	企業チーム名	SWR実施日時	歩数	参加者数	寄付金(円)
1	アイバイオテック	7/11～8/10	5,081,473	28	100,000
2	ジェンマブ	9/1～30	10,198,990	45	248,979
3	第一三共グループ	9/13～10/13	93,174,020	479	1,970,000
4	メルク/Merck	9/16～10/15	54,684,726	254	400,000
5	JAIFAソニー東京	9/27～10/27	8,578,506	59	63,000
6	ブラザー	9/27～10/27	63,008,338	277	283,000
7	Apex	9/27～10/27	14,328,998	84	65,000
8	ベックマン・コールター	10/1～31	20,046,132	84	120,000
9	シスメックス	10/1～31	16,265,692	90	175,000
10	アッヴィ	10/10～12	6,114,039	243	346,939
11	Trans Perfect Japan	11/8	945,000	63	210,000
12	明治安田生命 大阪第五M	11/26～12/25	12,643,631	52	56,000
13	テルモ	12/1～31	39,184,608	226	956,000
14	熊谷組	12/22～1/20	42,015,657	262	278,000
	合計		386,269,810	2,246	5,271,918

	実行委員会名	SWR実施日時	歩数	参加者数	寄付金(円)
1	きたかみ	6/14～7/13	8,562,849	62	73,000
2	神戸	6/14～7/14	8,128,574	46	31,000
3	いばらき	7/11～8/10	17,042,605	102	119,000
4	とまこまい	7/19～8/18	29,733,038	189	187,000
5	甲府	8/4～9/3	9,473,326	67	90,000
6	かがわ高松	8/15～9/14	14,454,574	120	98,000
7	室蘭	8/23～9/22	6,738,903	41	20,000
8	信州長野	9/1～30	12,460,746	75	69,000
9	東三河	9/5～10/5	18,344,390	121	110,000
10	青森	9/6～10/5	7,454,108	51	37,000
11	滋賀医科大学	9/12～10/12	28,866,175	169	206,000
12	にいがた	9/20～10/19	15,831,192	100	96,000
13	信州まつもと	9/20～10/20	8,720,736	53	36,000
14	さいたま	9/27～10/27	30,593,753	147	140,000
15	ふくい	10/1～31	5,757,235	44	11,000
16	高知	10/1～31	8,660,661	45	32,000
17	中津	10/1～31	8,613,555	42	49,000
18	泉州	10/1～31	5,400,352	24	10,000
19	ぐんま	10/6～11/5	9,307,129	54	43,000
20	おきなわ	10/10～11/9	12,408,296	91	76,000
21	大垣	10/11～11/10	6,462,958	28	11,000
22	京都	10/25～11/24	12,017,823	64	44,000
23	大分	10/25～11/24	24,468,559	127	185,000
24	静岡	11/1～30	12,105,393	73	86,000
	合計		321,606,930	1,935	1,859,000

	日本対がん協会（全国だれでも）	11/1～30	13,046,789	79	33,000
--	-----------------	---------	------------	----	--------



## 北海道 室蘭市

室蘭実行委員会

### 白鳥大橋のふもとで紡いだ絆 —RFLJ2025室蘭

実行委員  
多田 裕一郎

リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025室蘭は、8月23日(土)に白鳥大橋のふもとで開催され、サバイバーやご家族、支援者など計800名が参加しました。今年も暑さ対策と参加者負担の軽減を考慮し1日開催とし、22チーム314名、一般参加者・その他396名、実行委員20名、学生を含むボランティア70名が協力して温かな交流の場をつくり上げました。

オープニングでは力強いよさこいソーランの演舞が披露され、会場の雰囲気を一気に盛り上げました。ステージではサバイバーストークや地元少年少女合唱団の合唱が行われ、参加者それぞれが思いを共有し、希望を感じる時間となりました。また、会場にはキッチンカーが並び、緑日コーナーやアロママッサージブースも設置され、多様な世代が楽しみながら参加できる空間が広がりました。

毎年続けてきた白鳥大橋ふもとでの開催は、室蘭らしさを感じられる大切な風景でしたが、諸事情により来年度の同会場での実施は困難となりました。そのため、次回は屋内開催を予定しています。場所が変わっても、室蘭のRFLが大切にしていたつながりと希望を絶やさず、より参加しやすい環境づくりを目指してまいります。今年も多くの皆様のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。



開催日	8月23日
開催地	カナスチールみたら室蘭 横
SWR	8月23日～9月22日

総参加者数	800人
チー ム	24チーム
サバイバー	33人
総 収 入	1,646,821円
実行経費	1,490,721円
寄 付 総 額	156,100円

## 北海道 苫小牧市

とまこまい実行委員会

### 10年を新たなチャレンジの 第一歩として

実行委員長  
西川 良雄

RFLJとまこまいは、記念すべき10回目の開催を無事に終えることができました。これもひとえに、ご支援、ご参加いただいた全ての皆様のおかげであり、心より感謝申し上げます。

2016年の初開催以来、コロナ禍を乗り越えて継続してきた苫小牧のRFLは、地域との絆を深めながら、未来へつなぐ希望の光を灯し続けております。

今回、6年振りにスタートの地、苫小牧アルテン・青少年キャンプ場へ戻り、夜越えリレーを再開できたことにも大きな意義を感じております。夜の帳の中に灯るルミナリエの一つひとつは、参加者に深い感動を与え、強い連帯感で包み込んでくれました。

10年前の原点に立ち戻り、夜を徹して歩き続けることで、がんサバイバーさんの思いを知り、皆でがん向き合いながら、がん征圧を目指すという強い絆を参加者全員が共有できたと思っております。

また、今年は、苫小牧市と連携した「がんセミナー」や、支援者による「チャリティコンサート」の開催。地域がん診療連携拠点病院と共催した「がんサロン」、「パネル展」の実施。中学生への「がん教育支援」、地域FM局と連携した「RFL番組」の展開など、1年を通した「啓発活動」のスキームと、その道筋を付けることができたと思っております。

来年も、地域の皆様と共にRFLの希望のたすきを繋ぎたいと強く願っておりますので、ご支援よろしく願いいたします。



開催日	7月19日～7月20日
開催地	オートリゾート 苫小牧アルテン
SWR	7月19日～8月18日

総参加者数	1,389人
チー ム	30チーム
サバイバー	98人
総 収 入	2,795,090円
実行経費	1,998,090円
寄 付 総 額	797,000円

## 青森県 八戸市

八戸実行委員会

### 10年を迎えて。

事務局長  
荒道 武彦

八戸は開催10回目を迎えました。当初は勢いがあった実行委員も、仕事や体調不良、介護、人間関係の変化などで増減を繰り返しました。それでも、「毎年楽しみにしているサバイバーさんがいる」「また会える場所を築きたい」という思いから、活動を継続。しかし、メンバーだけでは人手が不足でした。

この10年、RFL八戸は学生ボランティアと共に築いた歴史でもあります。着ぐるみで汗だくになった学生、いさばのかっちゃんに大笑いした学生、時間も気にせず尽力してくれた学生。「ボランティアが楽しい!」という言葉は、私達に活動への誇りを気づかせてくれました。今年、象徴的だったのは八戸看護専門学校の学生2人。忙しい中3年間欠かさず参加。担任の先生が「RFLで生徒が見たことない表情をする」と言うほどでした。そこで、ステージでのセッションやセレモニーでの朗読を依頼。見事にやりきり、会場の一体感を生み出し、その後のステージの盛況に繋がりました。この10年、学生ボランティアさんだけでなく、ご協力頂いたすべての個人、企業、行政の方々の尽力があってこそこのRFLでした。おかげさまで2025年も無事に開催できました。他県からの実行委員の皆様の応援も大きな力となりました。人との出会い、ご縁に感謝致します。



開催日	7月26日、7月27日
開催地	八戸ポータルミュージアム はっち
SWR	—

総参加者数	985人
チー ム	18チーム
サバイバー	76人
総 収 入	1,010,340円
実行経費	637,628円
寄 付 総 額	372,712円

## 青森県 青森市

青森実行委員会

### 10年の歩み、そしてその先へ

実行委員  
碓井 里紗

RFLJ青森は初開催から10年目となる今回も夜越えで開催しました。サバイバーストークでは、仕事・家事・育児に奮闘しながら、前向きに生きるサバイバーとご家族を支えたケアギバーに、それぞれの思いを語っていただきました。エンティティテーブルでは、地域の混声合唱団による歌声に心を癒され、参加者それぞれが偲ぶ時間を過ごしました。

2日目は天候を考慮し、グラウンドから体育館にメイン会場を移し、プログラムを進行しました。リラックス効果のあるヨガで体を緩め、青森では初の試みとなる「ファイトバックセレモニー」を実施しました。実行委員やチーム参加者一人ひとりが、がんと向き合い立ち向かっていく決意を語り、がんと向き合う思いを共有する場となりました。イベントの締めくくりに行われた「ファイナルラップ」では、サバイバー・ケアギバーが、すれ違いざまにハイタッチをしながら、感謝の気持ちを伝え、再会を誓い合いました。

チーム参加も継続参加のチームに加え、初参加のチームも複数あり、リレーの輪が広がっていることを実感しました。

今年は、全国から3実行委員会が参加いただき、地域を越えた交流を図り、同じ空の下でがん征圧に向けた仲間がいるという心強さを感じることができました。今後もがんと向き合う人々を支援し、地域全体でいのちの大切さを共有する場として、年間を通したチャリティー活動を展開していきます。



開催日	9月6日～9月7日
開催地	青森県立保健大学
SWR	9月6日～10月5日

総参加者数	451人
チー ム	14チーム
サバイバー	63人
総 収 入	702,310円
実行経費	289,132円
寄 付 総 額	413,178円



## 岩手県 一関市

### 14年目のリレー・フォー・ライフ ～ひとりじゃない～

実行委員長  
佐藤 隆次

9月6日・7日の2日間、夜越えなしの屋内での開催となった。天候の影響を受けず熱中症対策も兼ねたが、実行委員会のスタッフからも参加した皆さんからも、安心して良かったとのお声をいただいた。

初日は、開会式とサバイバーズラップに始まり、オカリナ演奏、臨床宗教師・訪問看護師・訪問医師の鼎談と進み、地元ならではのつきたての「祝い餅」のふるまいもあった。トラックを歩きながら、互いに語り合える時間を設けた。エンプティテーブルの詩の朗読では、歩みを止めてテーブルを全員で囲み、がん向き合い過ごされたサバイバーの方々を偲んだ。2日目はラジオ体操から始まり、絵本の語り、リレーに寄せられた詩や想いを地元FM局のパーソナリティ・塩竈さんが朗読した。閉会式では、ファイトバックセレモニーを行って寄付金の用途についての意識の共有をした。

地元がゆえに参加を躊躇されるサバイバーの方もおられると耳にするが、ひとりでも多くのサバイバーの方が足を運び、ひとりでも多くのケアギバーの方々に参加してもらえようなリレーイベントを目指して15周年に向けて頑張りたい。

開催にあたり、多くの皆さんからご支援・ご協力をいただきましたことを感謝いたします。

## いわて実行委員会



開催日	9月6日、9月7日
開催地	一関ヒロセユードーム
SWR	—

総参加者数	300人
チー ム	16チーム
サバイバー	20人
総 収 入	1,270,464円
実 行 経 費	189,838円
寄 付 総 額	1,080,626円

## 岩手県 北上市

### がんになっても住みよい街を目指して

実行委員長  
高橋 寛美

今年のリレー・フォー・ライフ・ジャパンきたかみ2025リレーイベントはあいにくの雨模様の中ではありませんでしたが、実行委員やボランティアの皆さんの臨機応変かつ柔軟な対応にて「みちのく民俗村」で無事開催することができました。2017年の開催以来、晴天での開催が続き、私自身の中でも「きたかみは絶対雨は降らない」と根拠のない自信がありました。

開会式少し前から雨が強くなり、参加者の皆さんに申し訳ないと、不安な気持ちでいっぱいでしたが、ある実行委員さんに「先週だったら熊の出没で閉村し、開催ができなかったのよ。開催できたからよいじゃない!」の一言で心が救われました。イベント当日は雨の他に熊の目撃情報もあり、様々配慮しなければならないことがありました。

そんな中でも、今年は地元の高校生さんがボランティアやチームで45人の生徒の参加がありました。また、ステージイベントでは雨の中、元気いっぱい高校生や大学生のダンスや芸能、医療講演等時間を繰り上げながらでしたが、参加された皆さんを楽しませてくださりました。

今後も私たち実行委員は、何のために誰のためにを忘れず、「がんになっても住みよい街を目指して」年間を通して活動して参ります。イベント開催するにあたり、北上市、北上医師会、北上歯科医師会、北上薬剤師会の共催、市内外の企業、団体個人等多くの皆様のご理解ご協力があり、募金、協賛を頂きましたこと感謝申し上げます。

## きたかみ実行委員会



開催日	6月14日
開催地	みちのく民俗村
SWR	6月14日～7月13日

総参加者数	236人
チー ム	23チーム
サバイバー	26人
総 収 入	900,151円
実 行 経 費	94,227円
寄 付 総 額	805,924円

## 宮城県 仙台市

### RFLJ2025みやぎ実施報告、 いのちに思いを寄せるRFL

実行委員長  
高橋 悦堂

今年のみやぎは大きな動きのあった1年でした。

5月、「RFLJ2025みやぎを応援するチャリティーコンサート」が有志により開催され、名曲「HERO」でも有名な歌手で乳がんサバイバーの麻倉未稀さんをはじめ多くのアーティストさんが出演し支援をいただきました。また、9月のウォークイベントに向け宮城の象徴ともいえる青葉城址の伊達政宗公騎馬像が2週間にわたりドーンパープルにライトアップ。しかし会場付近で熊の目撃情報が多発し、残念ながら24時間開催を断念。しかし当日は日本対がん協会会長の垣添先生においていただくことが出来、仙台市内ウォーキングに参加いただき、開会挨拶、特別講義などを頂戴いたしました。

多くのステージ出演者、ブース・チーム・個人参加、協賛団体・個人、ボランティアの方々に支えられ、天気にも恵まれたRFLJ2025みやぎの開催となりました。

RFLは「いのち」に思いを寄せる活動です。サバイバーさんが懸命に今を生きる姿、ケアギバーさんの力強くあたたかな支え、ルミナリエに描かれた愛する人への想い…。がんを通じ、しぜんに「いのち」へ思いを寄せることが出来る。それがRFLの素晴らしい意義だと感じます。

2026年は3月22日にせんだいメディアテークにて垣添先生主演「歩く処方箋」上映会、10月3日～4日に仙臺緑彩館にてウォークイベントを開催予定です。ぜひみやぎにおいで下さい。

## みやぎ実行委員会



開催日	9月27日、9月28日
開催地	青葉山公園 仙臺緑彩館
SWR	—

総参加者数	700人
チー ム	36チーム
サバイバー	100人
総 収 入	2,505,811円
実 行 経 費	956,538円
寄 付 総 額	1,549,273円

## 秋田県 秋田市

### 地域に根付き始めた秋田のRFL

実行委員長  
守田 亮

秋田のRFLはコロナ禍でのオンライン開催を除くと、今年で4年目を迎えました。屋外で開催した第1回目と2回目、昨年は大雨の中で急遽室内に変更となりました。不安の中で迎えた2025年度は秋を感じさせない温かな太陽の下で笑顔にあふれたRFLを開催することができました。思えば4年前、初めてのリアル開催でサバイバーズラップを歩かれた参加者は3名だけでした。まだRFLって何?という雰囲気の中で皆が戸惑いながら参加していたのを思い出します。今年はサバイバーズラップには50名をこえる多くの方々が並び、笑顔にあふれた素晴らしいものになりました。会場では秋田県内外の方々が交流し語らい、時に涙を流し手を取り合いながら、ひとりじゃないよ…そう思わせてくれる会場全体の雰囲気でした。ボランティアの学生さんも多く参加していただき、何か自分にできることを…そう感じさせるものでした。皆様のおかげで本当に素晴らしいRFLになったと思います。また全国の会場でお会いしましょう!!

## あきた実行委員会



開催日	9月6日
開催地	秋田市千秋公園 二の丸広場
SWR	—

総参加者数	320人
チー ム	21チーム
サバイバー	150人
総 収 入	472,535円
実 行 経 費	259,535円
寄 付 総 額	213,000円



## 山形県 鶴岡市

## ～8年ぶりの復活、新たな一歩～

実行委員長  
平方 さおり

2025年6月14日(土)渚の交番 カモンマーレ・加茂レインボービーチ

2017年以降8年ぶりに開催いたしました。新たに立ち上がった実行委員会の多くが初参加でしたが、参加者・ボランティア・チームの皆さまに支えられ、無事に開催を終えることができました。

雨によりルミナリエバッグは濡れてしまいましたが、寄せられたメッセージはしっかりと心に刻まれました。サバイバーズラップでは笑顔で手を振る方や、涙する方もあり、多くの想いが繋がる時間となりました。

ステージ企画やルミナリエセレモニーでは「4つの光」と称して、これを誓いに変え、ご支援を日本対がん協会へ託し、がんになっても大丈夫と思える社会を目指す決意を新たにしました。

ご協力くださった、すべての皆さまに心より感謝申し上げます。今回の経験を糧に、さらに地域に根ざした活動へと育てて参ります。

## つるおか実行委員会



開催日	6月14日
開催地	渚の交番カモンマーレ 加茂レインボービーチ
SWR	—

総参加者数	120人
チーム	9チーム
サバイバー	22人
総収入	489,369円
実行経費	101,678円
寄付総額	387,691円

## 福島県 福島市

## RFLJ2025ふくしまを振り返って

実行委員  
横山 真

今年は、トヨタクラウンアリーナを会場に、1日限りの室内開催となりました。実行委員として準備を進める中、例年のような夜通しのリレーやルミナリエができないことに不安もありましたが、限られた条件の中で参加者の皆さんに温かい時間を届けられるかが今年の課題であり挑戦でした。

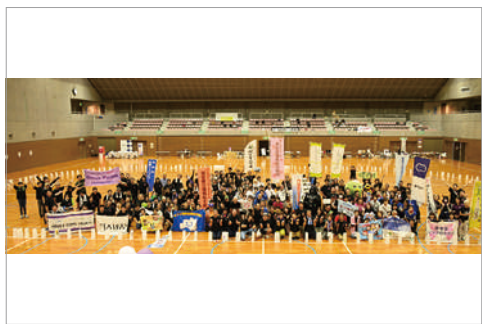
開会式でサバイバーの方々が歩み出す瞬間、体育館いっぱいに拍手が響きわたりました。「この場をつくれたことに意味があった」と胸が熱くなり、準備の苦労が報われました。

また、マイ・オンコロジー・ドリーム奨励賞の受賞者2名を迎えて行ったパネルディスカッションは、多くの方が熱心に耳を傾けてくださり、がん医療の未来について共に考える場になりました。参加者の真剣な表情を見て、実行委員としてこの企画を実現できたことを誇らしく思います。

さらに「サバイバーズルーム」では、参加者が涙を流しながら語り、笑顔を交わす姿がありました。その光景を見て、安心して心を開ける空間をつくることこそが、私たちの役割なのだと改めて気づかされました。

短い時間の中でも、会場にあふれたのは希望とつながりの力でした。裏方として走り続けた一日は決して楽ではありませんでしたが、その分、得られた感動も大きなものでした。RFLJ2025ふくしまは、私たち実行委員にとっても、かけがえのない学びと誇りの一日となりました。

## 福島実行委員会



開催日	9月15日
開催地	福島トヨタクラウンアリーナ (国体記念体育館)
SWR	—

総参加者数	1,000人
チーム	30チーム
サバイバー	200人
総収入	2,356,744円
実行経費	1,605,089円
寄付総額	751,655円

## 茨城県 つくば市

## みんなで作ったRFLJ2025いばらき

事務局長  
吉田 祥悟

RFLJいばらき誕生プレイベントとして、8月10日(日)茨城県つくば市つくばカピオアリーナにて開催した本イベント。

いばらき実行委員会が発足し、活動を開始したのは3月。それから僅か5か月でこのようなイベントが開催出来たことは、本活動に賛同し、共催となって応援して頂いたつくば市、後援、協力いただいた医療機関、企業、法人の皆様、そしてRFLJ各実行委員会の皆様、地域の皆様、そしてRFLの活動に関わる全ての方々のご協力にこの場を借りて、深く感謝申し上げます。

いばらき実行委員会メンバーのほとんどがRFLに初めて関わる者ばかりで、関わる皆様のご理解とご協力が無ければなしえることは出来ませんでした。

私自身が初めてだらけの状態でしたが、開催したことにより、RFLの存在意義についてあらためて考えることが出来、多くの患者様、そのご家族の支えになっている活動であることを知りました。またその一員として皆様に関われることで、私自身が活かされています。

“がん”という病は決して他人事ではありません。だからこそ、健康な自分に出来ることは何かを問い、患者様やそのご家族に心を寄り添えるこの活動を絶やすことなく、いつの日か、悲しむ人をこの世から無くせることを願ってやみません。

2026年は10月3日(土)に「つくば」で会いましょう！

## 栃木県 壬生町

## 希望の夜明け

実行委員会事務局  
関口 絵里加

RFLJとちぎは、今年で13回目のイベントを終えました。楽しみにご参加されたサバイバー・ケアギバーの皆さま、ご協賛・ご寄付いただいた皆さま、ルミナリエに願いを込めてくれた皆さま、ボランティアとしてご参加いただいた皆さま、会場をご提供いただいた壬生町の皆さま、今年も多くのご支援・ご協力をありがとうございました。

今年のスローガンは「共に歩き 共に迎える 希望の夜明け」でした。24時間がんと闘う方やそのご家族に寄り添い共に歩むことで、それがやがて希望となることを願い、実行委員の皆で心を込めて考えました。その想いが空へ届いたのか、雨が降り続いた1日目から一転、2日目は輝く朝日に照らされ、その美しいドーンパーブルの空模様は私の大切な思い出です。

そして、私のもう一つの思い出は、RFLJとちぎで初めて行った対談企画です。その企画の中で、がんサバイバーの加藤さんに会いました。5回のがんと闘いながらも前向きに生きる加藤さんのお言葉は、決してがんには負けない力強さがあり、これまで何気なく毎日を過ごしていた私の心を変えてくださったと感じています。加藤さんが教えてくださったお言葉を胸に刻みながら、今を大切に楽しい毎日を過ごしていきたいです。

最後に、このイベントに関わってくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。そして、来年もまた元気な姿でお会いできることを楽しみにしております。

## いばらき実行委員会



開催日	8月10日
開催地	つくばカピオ
SWR	7月11日～8月10日

総参加者数	181人
チーム	13チーム
サバイバー	31人
総収入	561,460円
実行経費	265,028円
寄付総額	296,432円

## とちぎ実行委員会



開催日	9月20日～9月21日
開催地	壬生町総合運動公園 陸上競技場
SWR	—

総参加者数	2,644人
チーム	42チーム
サバイバー	53人
総収入	4,561,337円
実行経費	3,954,848円
寄付総額	606,489円



## 群馬県 前橋市

ぐんま実行委員会

### 雨にも負けずつながる希望

副実行委員長  
狩野 太郎

初開催から13回目となる今年のRFLJは、冷たい雨が降る中スタートしました。当日は、参加を熱望するサバイバーからの手紙を受け、当初の予定を変更して実行委員会名誉会長の山本一太 群馬県知事が初めてお越しになり、熱い応援メッセージと心温まるギターの弾き語りで開会式を盛りあげてくださいました。「サバイバーの皆さんを応援しているつもりの私たちの方が、いつも皆さんから勇気をもらっている」との知事の言葉に、実行委員やケアギバーが皆深く頷いていました。また、今年は梅田正行 日本対がん協会理事長にチームテントを1つずつ回ってご挨拶いただきました。このほか、夜遅い時間には、現在治療中の20代と思われる男性サバイバーさんをお見かけしました。両手の杖にすがりながら、脇目も振らずに一人黙々と歩き続ける姿に声をおかけすることもできませんでした。来年もまたここで会いましょう、との想いを込めて黙礼しました。今年初めて参加された皆さんにとっても、毎年ご参加の皆さんにとっても、次の参加が目標や楽しみとなるよう、次年度に向けて事務局や実行委員メンバーで力を合わせてゆきたいと思います。

最後になりますが、年間を通してRFLJのPRや開催準備をいただいている事務局の群馬県健康づくり財団の皆さん、協賛企業、ボランティアの皆さんをはじめ、応援してくださったすべての方々に心から敬意と感謝を申し上げます。



開催日	10月11日～10月12日
開催地	ALSOKぐんま 総合スポーツセンター
SWR	10月6日～11月5日

総参加者数	5,694人
チーム	69チーム
サバイバー	350人
総収入	6,968,700円
実行経費	4,831,258円
寄付総額	2,137,442円

## 埼玉県 さいたま市

さいたま実行委員会

### つながりと絆のリレー

事務局長  
田端 良吉

17年を迎えたさいたまのイベントは6年ぶりとなる待望の24時間開催を実現しました。第1回目から17年間、大会長を勤めてくださっている清水さいたま市長をはじめ、実行委員とチームの皆さん、サポーター、協賛などたくさんのご協力で繋いでくれたリレーでした。また、各地の実行委員会からもたくさんのご参加をいただき、繋がりと絆で結ばれたリレーでもありました。17年間同じ会場で開催を実現できたのは、さいたま市役所の関係各部署、休業して建物施設や駐車場を無償で開放してくださる関係各所のご理解とご協力のたまものです。また、そのおかげで寄付率約5割を達成しているのもさいたまの特色です。

今回参加が叶わなかったチームがある中、7チームの新規参加をいただき昨年の35チームを上回る39チームの参加いただけたことは今後につながる成果となりました。

啓発講演を引き受けてくださった医療関係者のご協力、チームの皆さんと応援に来てくださった友人知人やご家族の皆さん、各地から駆けつけてくれた実行委員会の仲間を大切に、つながりと絆のリレーを継続していきます。

これからも「迷わせない・困らせない・ひとりにさせない」をスローガンに「One Teamさいたま」を継続していきますので、どうぞよろしくお願いします。



開催日	9月27日～9月28日
開催地	さいたま市緑区 緑の広場
SWR	9月27日～10月27日

総参加者数	1,100人
チーム	39チーム
サバイバー	70人
総収入	3,333,972円
実行経費	1,708,600円
寄付総額	1,625,372円

## 埼玉県 川越市

川越実行委員会

### ひとりじゃない！ 大空に向かって、つなごう未来の川越へ

実行委員長  
野口 悟

17年目を迎えた川越のリレーは、お天気にも恵まれ、多くの方にご参加いただきました。今年は32チーム504名の参加となり、2024年に比べ56名増え、約13%の伸び率となりました。また、サバイバーの皆様の参加も2024年の57名から72名と、こちらも大幅に増え、嬉しい限りです。

今年も川越の11商店街の協力を頂き、「川越紫化計画」を実施し、街全体を紫色に染め、がんへの理解と支援の輪を広げました。また、年間を通じ、募金箱を設置いただいている協力店・協力的会社が50カ所以上となりました。地域の皆様の温かい協力に心より感謝申し上げます。

そして、今年の実績の特徴として、寄付率の向上があります。2024年の寄付額は916,365円（寄付率約56%）でしたが、今年は1,187,068円（同71%）となりました。参加者が増えることで、参加寄付が増えたことや、テントを実行委員会が所有し、経費を抑えるなどの取り組みの結果です。今後も皆様からの寄付を大切に使い、効率的な運営を心がけてまいります。

年間を通して奇数月に開催している「がんサロン川越」も、川越のリレーの特徴です。先日50回の節目の会を開催することができました。

改めて、すべての参加者・スタッフの皆様に感謝を申し上げ、来年もまたお会いできることを楽しみにしています。



開催日	9月27日～9月28日
開催地	川越市
SWR	—

総参加者数	504人
チーム	27チーム
サバイバー	72人
総収入	1,670,263円
実行経費	483,195円
寄付総額	1,187,068円

## 埼玉県 所沢市

ところざわ実行委員会

### リレー・フォー・ライフ・ジャパンところざわ 2025活動報告

実行委員長  
角田 潤弥

皆様からの温かいご支援・ご協力をいただき、5月24日(土)、第5回目を無事開催することができました。心より感謝申し上げます。

イベント当日は、夕方から翌朝まで雨予報。会場となる所沢航空記念公園は一般の方の出入りも多い為、トラックの搬入は朝9時までとの制限があり、テントの撤収作業を安全に終える為に、泣く泣くプログラムを短縮しテント撤収時間に割り当てさせていただきました。

テント撤収完了後に雨が落ちてくると言う、絶妙なタイミングでした。

イベントは、埼玉西部消防組合 消防音楽隊による演奏に始まり、9チームのご参加に加え、キッチンカー3台に販売ブース1つのご参加をいただき、各種セミナーとサバイバーストーク、演奏で、イベントを盛り上げていただきました。

また、今回は近隣の「西武学園医学技術専門学校」からボランティアとして協力をいただくことができ、みなさまの温かいご支援とご協力のおかげで、大盛況のうちに閉幕することができました。大変ありがとうございました。

RFLJとところざわのテーマは、『がんを一人であらぬ方に、同じ経験をしてきた仲間との出逢いにより、希望を感じてもらい笑顔になっていただきたい』との願いが込められています。

今回のイベントが、少しでもそのように感じる場所になっていましたら幸いです。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。



開催日	5月24日
開催地	所沢航空記念公園 記念館前広場
SWR	—

総参加者数	317人
チーム	9チーム
サバイバー	43人
総収入	947,593円
実行経費	602,593円
寄付総額	345,000円



## 千葉県 柏市

ちば実行委員会

### 感謝とともに

副実行委員長  
菊地 恵美子

柏で再開して5回目のRFLJちばを、無事開催できました。2019年に実行委員会立ち上げた途端の新型コロナのまん延により、どのように計画してよいやら、周知できるのか、協力依頼はどうするのかなど、いろいろ悩みながらの当初の開催でした。それから5年、続けて開催できたことは、多くの皆様のお力添えがあったという感謝の気持ちでいっぱいです。

県外各地からも多くの方においでいただき、わずかながらも年々参加者数も増えています。当日は芝生広場を歩いたり外のテントで啓発活動をしたりすることを予定していましたが、雨の予報、準備段階でも雨模様だったことから体育館内での開催としました。現在は会場の都合もあり、夜越えはできず1日開催(7時間)ですが、今後の課題として、参加者の皆さんとのお話しや、ストーリーを共有できるような、もう少しゆったりした時間を設けたいと思っています。

昨年初めて参加された方が、今年も参加しお手伝いいただくなど、とても嬉しくありがたいと思うと同時に、続けて参加ご協力いただいている各団体・個人の皆様にも深く御礼申し上げます。できればもっと市内、県内の多くの方に知ってもらい、おいでいただけることを夢見ていますが、まずは芝生広場にも飛び出してみんなで気持ちよく楽しめるRFLJちばをご用意できるよう準備を進めてまいります。2026年も皆様のご来場をお待ちします。



開催日	10月25日
開催地	千葉県立柏の葉公園体育館
SWR	—

総参加者数	284人
チーム	18チーム
サバイバー	32人
総収入	548,912円
実行経費	216,912円
寄付総額	332,000円

## 東京都 台東区

東京中央実行委員会

### がんで苦しまない世界をめざして

事務局長  
松原 幹夫

「RFLJ2025東京上野」は対がん協会は澤RFLJマネジャー、RFLJ東京中央実行委員会高橋委員長の挨拶、ご来賓の東京都保健医療局技監成田友代さん、台東区長服部征夫さん、サバイバー&ケアギバーBinzee Gonzalvoさんのご挨拶、俳優篠井英介さんの開会宣言で始まり、夜越なしの二日間開催しました。参加チーム31、参加者920名(内サバイバー220名)、来場者延約11,000名で、昨年を超える規模となりました。

サバイバーズトークでは、大勢が篠井さんを囲んで懇談をしました。啓発プログラムでは、科学ジャーナリスト石田雅彦さんの講演「加熱式タバコによる健康被害の最新情報」、国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科長松岡弘道医師の講演「がん治療と心〜がん治療に精神腫瘍科が必要なワケ〜」、その後俳優秋野暢子さんとの対談を行いました。何れも活発な討論が行われ、大勢の方が有益な情報を得られたことと思います。

ステージでは、サバイバーさん達によるバンド・ダンス等が披露され、笑顔とパワーが広がり、またプロミュージシャン三四朗さんのサックスやLAから来日中だったThe Bean Tonesが奏でるジャズハーモニーは、ルミナリエへと続く優しい光のように会場全体を温かく包み込みました。



開催日	9月27日、9月28日
開催地	上野恩賜公園(東京都台東区)
SWR	—

総参加者数	11,000人
チーム	31チーム
サバイバー	220人
総収入	5,259,044円
実行経費	3,961,409円
寄付総額	1,297,635円

## 東京都 文京区

御茶ノ水実行委員会

### つながる心、ひろがる希望

副実行委員長  
前川 紗莉

RFLJ御茶ノ水は、今年で9年目の開催となりました。夏の暑さが残る中での開催でしたが、会場設営や当日の進行、各出店ブースなど、互いに助け合いながら作り上げた温かいリレーとなりました。

今年は新たな試みとして、小児科病棟の看護師の方々にご協力いただき、会場に来られない入院中の子どもたちへ紙芝居上映を行いました。会場に訪れた子どもたちやご家族の姿もあり、会場はより明るい雰囲気になりました。「がんを学ぼう講座」では、がん治療に携わる医師の先生方による講演や、子宮頸がんサバイバーの方と学生団体による対談が行われ、がんについて正しく知ることの大切さを改めて感じました。

ルミナリエセレモニーでは、小児がんで息子さんを亡くされた方のお話を伺い、深い悲しみの中でも前を向く強さに心から敬意を表しました。

サバイバーの方の「がんになったことで仲間が増えた」という言葉が印象に残り、支え合うことの大切さを実感しました。来年度も心温まるリレーとなるよう努めてまいります。



開催日	9月27日～9月28日
開催地	東京科学大学 知と癒しの庭
SWR	—

総参加者数	480人
チーム	11チーム
サバイバー	19人
総収入	366,948円
実行経費	14,876円
寄付総額	352,072円

## 神奈川県 横浜市

横浜実行委員会

### 今年も横浜は熱かった!!

実行委員長  
池田 誠吾

みなとみらい地区の臨港パークにて13回目のイベントを無事終えることが出来ました。

今年はサバイバーだけでひとつのチームを作って初参加のチームが、夜には合唱も披露してくれました。素晴らしい時間を過ごさせてもらい、まわりのみんながパワーをもらいました。来年も元気な姿を是非お会いしたいです。

がんが、「風邪」と同じような扱いになる世の中になりますように 感謝



開催日	9月27日～9月28日
開催地	みなとみらい 臨港パーク
SWR	—

総参加者数	2,500人
チーム	30チーム
サバイバー	52人
総収入	2,274,163円
実行経費	490,163円
寄付総額	1,784,000円



## 新潟県 新潟市

### 困難を乗り越え

実行委員長  
石塚 紀明

今年で11回目の開催となるRFLJにいがたは、スタートこそ良かったのですが夕方から雨と強風という厳しい状況での開催となりました。

エンプティテーブルを目前に控え、あまりの強風で中止を余儀なくされる状況のなか来場者さま含め、関わる全ての方の安全を考え、内容を一部変更、縮小しエンプティテーブル終了後、一時中断し明朝に再開するという決断に至りました。

そんな緊急な状況の中でも各々が各個に判断しながらお互いにすり合わせ、安全なかたちに持っていったのは一人一人の思いの強さの表れなんだと、ただただ感謝と感動の二日間でした。

故人を思い、偲びながら参加し続ける。

大切な人の為に参加し、励ます。

大切な人を悲しませたくないから立ち向かう。

それがRFLJにいがたを支えてきた「思い」のかたちなんだと思います。

それを守るために、これからも歩き続けたいと思います。

今年もRFLJにいがたに関わってくださった全ての方々に感謝いたします。

ありがとうございました。

### にいがた実行委員会



開催日	10月18日～10月19日
開催地	新潟県スポーツ公園
SWR	9月20日～10月19日

総参加者数	700人
チーム	17チーム
サバイバー	120人
総収入	1,826,660円
実行経費	1,384,633円
寄付総額	442,027円

## 富山県 富山市

### 地元に根付け!富山 RFL の灯り

実行委員長  
志鷹 千絵

第3回目となる富山RFLの朝は、強風に加え雨も混じる悪天候となりました。しかし、今回の開催場所は富山の玄関口である富山駅南北自由通路であったため、天候に左右されることなく開催することができました。多くの方が行き交う場所での開催により、これまでRFLをご存じなかった方々にも広く広報することができ、ご関心を寄せていただく貴重な機会となりました。

会場は想いのこもったルミナリエで彩られ、お手製の入場ゲートの先にはウォークトラックが設けられました。ステージでは、福井こどもホスピスの石田代表より、日本における小児がん患者とそのご家族の現況についてお話を伺い、「もっと知って、身近に感じてほしい」という強い想いを受け取りました。また、プロジェクト未来受賞者の佐藤先生からは、ご研究成果のご報告に加え、RFL活動の意義や感謝の言葉をいただきました。

さらに、チア演技やダブルダッチ演技、バンド演奏、出店ブースなどが会場を盛り上げ、県外からも多くのRFL仲間が応援に駆けつけてくださいました。

まだまだ手探りで開催ではありますが、多くの心が一つになり、「笑顔」と「涙」があふれる感動的な会となりました。今後も富山RFLの灯りをともし続け、地元に根付く活動を続けていきたいと思っています。

### 富山実行委員会



開催日	10月4日
開催地	富山県富山市
SWR	—

総参加者数	300人
チーム	11チーム
サバイバー	17人
総収入	926,894円
実行経費	531,334円
寄付総額	395,560円

## 福井県 福井市

### 雨(予報)ニモマケズ、一致団結し無事開催

実行委員長  
山本 義孝

RFLJふくい開催日10月18日は雨風の予報で、本当に開催できるかどうか直前まで実行委員で話し合いました。サバイバーさんや、ボランティアの方々を中心に参加される方の万が一を考え、時短で開催するという苦渋の決断でした。そんな中でも例年なみの参加者数で、各ブース等の辞退もなく、皆で一致団結してRFLJふくいらしい開催ができたと思います。

実行委員でがん検診の専門家の松田先生が、今年はサバイバーとして啓発講演をしてくださったり、ヨガやあったカード、レモネードやマッサージなど恒例のものから、ステージイベントでは、元プロミュージシャンの前田氏によるRFLJふくいのテーマソングを初披露いただいたり、中身の濃い時間となりました。

強風のためルミナリエセレモニーは明るい時間帯で行い、展示もHOPEのみとなりましたが、他のルミナリエは後日、各病院中心に展示していただきました。エンプティテーブルの詩の朗読も、早見さんご夫妻が神奈川県から駆けつけてくださり、素晴らしい時間となりました。

参加した方も、内容や時間変更で残念ながら参加いただけなかった方も、関わった皆さまに急な時間変更に対応していただき、RFLの約束を果たせたと思います。来年以降も皆で、RFLJふくいを作り上げていきたいと思っています。

### ふくい実行委員会



開催日	10月18日
開催地	福井中央公園
SWR	10月1日～10月31日

総参加者数	500人
チーム	17チーム
サバイバー	25人
総収入	991,460円
実行経費	622,259円
寄付総額	369,201円

## 山梨県 甲府市

### 「風林火山隠雷」の第2章『火』の巻 第10回深い情熱

実行委員長  
前澤 美代子

甲府は、第10回記念大会となりました。夜通しの2日間、とはいえ、熱中症警戒アラートに合わせ、ウォークを室内のイベントに切り替え、「サバイバーズトーク」や「がんサロン」は図書館のホワイエに移動し、ガラス越しですのでウォーク会場との一体感を損なわずに開催できました。開会式から閉会式まで、日本対がん協会の垣添会長にご参加いただき、がん患者のために医療や研究に尽力され、今なおサバイバーズの方や人々に歩くことでがん征圧を目指すお姿に、参加者一同が励まされました。ボランティアの大学生や高校生にとって生きることについて考えるきっかけとなっていました。鍼灸師会によるマッサージ、アロマサークルの看護学生たちによるハンドマッサージ、POLAによる肌診断やお手入れアドバイス、訪問看護師による手作りのハーブピロー、ヴァンフォーレ甲府のアンバサダーによる健康教室、ヤクルトなどの企業から多くのグッズを提供していただき、くじ引きなど楽しい催し物で笑顔があふれていました。垣添先生のがんと治療についての講義および山梨県赤十字血液センターによる献血の講義は好評でした。ルミナリエセレモニー、神部冬馬さんの優しい歌声に穏やかな気持ちになりました。これまで、リコージャパン山梨支社や介護センター花岡等、多くのみなさまと共に歩き、祈り、偲ぶことを通して10年を想い返し、これらの10年に夢を馳せ、バルーンリリースを行いました。

### 甲府実行委員会



開催日	8月29日～8月30日
開催地	山梨県立大学池田キャンパス
SWR	8月4日～9月3日

総参加者数	580人
チーム	8チーム
サバイバー	200人
総収入	1,173,802円
実行経費	647,304円
寄付総額	526,498円



## 長野県 長野市

信州長野実行委員会

### ひとりじゃないよ つながる想い 明日に向けて

実行委員長  
市川 直明



開催日 9月14日、9月15日

開催地 長野駅東口公園

SWR 9月1日～9月30日

総参加者数 600人

チーム 16チーム

サバイバー 70人

総収入 1,622,641円

実行経費 980,472円

寄付総額 642,169円

## 長野県 松本市

信州まつもと実行委員会

### 夜ごえ開催を終えて

副実行委員長  
廣田 有紀



開催日 9月20日～9月21日

開催地 やまびこドーム

SWR 9月20日～10月20日

総参加者数 500人

チーム 32チーム

サバイバー 20人

総収入 1,567,900円

実行経費 1,119,244円

寄付総額 448,656円

## 岐阜県 岐阜市

岐阜実行委員会

### みんな大好き！RFLJ 2025岐阜

実行委員長  
吉田 正樹



開催日 11月22日

開催地 長良川うかいミュージアム

SWR ー

総参加者数 216人

チーム 3チーム

サバイバー 27人

総収入 629,659円

実行経費 181,010円

寄付総額 448,649円

## 岐阜県 恵那市

えな実行委員会

### 2回目のRFL開催で感じたこと

実行委員長  
安藤 英明



開催日 10月11日

開催地 恵那市市役所前広場

SWR ー

総参加者数 1,000人

チーム 14チーム

サバイバー 63人

総収入 622,913円

実行経費 162,913円

寄付総額 460,000円



## 岐阜県 大垣市

大垣実行委員会

### 「つなげよう、つながろう、ひとりじゃない！」

実行委員長  
進藤 文

10月26日岐阜県西濃地方では初開催RFLJ2025大垣を西公園で行いました。がん哲学外来つむぎの路☆おおがきのメンバーを中心に実行委員会を立ち上げ、準備してきました。初開催ということで、バタバタ状態ではありましたが、何とか開催当日を迎えることができました。午後から上がるとの予想でしたが、時々小雨がぱらつく中での開催でした。

あいにくの天候でしたが、日本各地から多くの方達に参加して頂きました。オンラインでつながり初めてリアルに会えた方、久しぶりに再会できた方、同じ地域でいつも顔を合わせる方、サバイバー、ケアギバー、色々な方達に集まって頂き、「つなげよう、つながろう、ひとりじゃない」というスローガン通りの会を催すことができたと考えています。

がん教育模擬授業とがん防災マニュアルの紹介は予定通り行いましたが、大垣女子短期大学ウィンドアンサンブルによる吹奏楽は雨のため中止せざるを得ず、穴埋めを小児がんサバイバーの谷山健太郎さんをお願いしました。突然の無茶振りでしたが、歌だけでなくサバイバーストークとしてご自身の体験談も交えての素敵なステージでした。

初めてのしかも雨の中の開催でしたが、何とかエンプティータブルセレモニー、閉会式までたどり着くことができたのは、ご協力、ご参加いただいた全ての皆様のおかげと考えています。本当にありがとうございました。来年も頑張ります！



開催日	10月26日
開催地	西公園
SWR	10月11日～11月10日

総参加者数	140人
チーム	11チーム
サバイバー	40人
総収入	702,279円
実行経費	502,279円
寄付総額	200,000円

## 静岡県 静岡市

静岡実行委員会

### 「楽しむチカラを支えるチカラに！～おかえり静岡～」

実行委員  
鈴木 かおり

1年の終わりに近い11月、今年で13回目となるRFLJ静岡を無事開催することができました。静岡県立大学のご協力の元、看護学部のある小鹿キャンパスの校舎を利用した会場は2回目になります。

開会式では、実行委員であるパルーンアートの師匠の伝承を受け継ぎ大変華やかなパフォーマンスで盛り上がりました。参加した20のチームは、啓発活動やマッサージなどの癒し系、グッズ販売など、それぞれの特色を生かして楽しく活動してくれました。会場には、全国各地からRFLを愛する人たちもたくさん足を運んでくださり、気候温暖でなおかつ人柄も温暖な静岡らしい、温かい雰囲気で開催できました。

毎年そうですが、当日の開催に至るまでの準備は実行委員にとっても大変な作業であります。それでも、続けられる原動力は、RFLの魅力ややりがいだけでなく、実行委員同士がお互いを認め、思いやる関係が温かさを醸し出しているからだと思います。その結果、当日の来場者にとっても心地よい場所が作り出されたのではないのでしょうか。一人一人の力は決して大きいものではありません。それでも、RFLを通して集まった仲間との出会いとそこでのつながりは大きな力となります。がんになっても、孤立することなく、がん向き合う仲間と楽しむチカラを支えるチカラに！お帰り静岡。また来年、ここで会いましょう。



開催日	11月15日～11月16日
開催地	静岡市
SWR	11月1日～11月30日

総参加者数	1000人
チーム	20チーム
サバイバー	53人
総収入	1,955,632円
実行経費	231,486円
寄付総額	1,724,146円

## 愛知県 豊川市

東三河実行委員会

### “Smile Forever”～ここには仲間がいる 希望がある 笑顔になる～

実行委員長  
小林 良紀

当実行委員会は、チャリティー活動の集大成となるイベント「24時間RW」及び「SWR」を同時期(ゴール時間が同じ)に開催しました。時折小雨ばらつく天候でしたが、たくさんの方が参加し、盛況のうちに終了しました。今年は、「もっと広い地域に、もっと多くの人に」RFLを知ってもらいたいとの想いで活動を続けた努力の甲斐あって、12年目にして愛知県及び東三河全自治体(5市2町1村)から後援をいただきました。また、イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンに毎月参加を計画するとともに、地域・企業が開催するイベントにブースを設置する等、積極的にRFLのPR活動を行いました。

24時間RWには、23名(手形作成者)のサバイバーさんと多くのケアギバーさんが参加され、たくさんの心温まる力強いエールや想いのこもったメッセージを届けることができました。また、20名の一般・学生ボランティアの方々がイベント運営に協力いただき、地元の「ゆるキャラ」も5体登場し、会場いっぱいに笑顔が溢れました。SWRでは、目標の2000万歩には僅かに届きませんでしたが、過去最高121名の登録参加数で次年度に向けての大きな成果がありました。

2025年のRFL活動は終わりますが、たくさんの皆様からのご支援ご協力に感謝する気持ちを忘れず、更に充実したRFL活動になるよう2026年の活動に真摯に取り組みます。



開催日	10月4日～10月5日
開催地	豊川市キュバティール広場
SWR	9月5日～10月5日

総参加者数	485人
チーム	15チーム
サバイバー	24人
総収入	1,718,291円
実行経費	765,979円
寄付総額	952,312円

## 愛知県 岡崎市

あいち実行委員会

### 岡崎での開催で再会

実行委員長  
大菅 善章

2度目の開催となりましたRFLJあいち、2025年は9/27に念願の岡崎市での開催が出来ました。

2019年以降の同市での開催は、多くの方々が首を長くして待っていただけたのだらうと強く感じました！

今回の開催が決まり、各方面にお知らせをしたところ「やっと帰ってきたね!」という言葉を多くいただく事が出来た事には感激しました。

当実行委員会メンバーが以前所属していた実行委員会より続く、「参加者全員で作るRFLJの会場」そのまま、チーム・個人参加は別にして多くの方々の手をお借りし、無事に?開催出来ました。

当日は、久しぶりに再会出来ました仲間たちに多く駆けつけてもらえ、感激のハグや握手が会場の至るところで見受けられました！

閉幕後には、あるチームの会場での活動に触発され、「来年はもっと自分たちもチカラを入れて参加させていただきます」と複数チームより宣言を受けました。

2026年には愛知県ではアジア大会が開催されるため、会場の選定が困難になると予想されますが、待っていただける人たちがいるから、形はどうあれ必ず開催したいと思っています。



開催日	9月27日
開催地	岡崎中央総合公園運動広場
SWR	—

総参加者数	600人
チーム	11チーム
サバイバー	42人
総収入	1,152,746円
実行経費	188,284円
寄付総額	964,462円



## 三重県 松阪市

三重実行委員会

### 残念ながら今年も天候に恵まれず

実行委員長  
大西 幸次

2025年のリレー・フォー・ライフ・ジャパン三重は、例年通り夜越えで開催しました。

残念ながら天候に恵まれず、準備の時から小雨模様で参加者も例年より少なくなっていました。

ステージ参加も他のイベントとかなり重なり、参加できないグループが多く、そんな中でも参加いただいた方々には感謝しかありません。

実行委員も高齢化が進み、次回開催時は夜越えが難しく、1日開催となるよう計画中です。

また、ボランティアやステージ参加は、がんについて知らない人が少しでも参加して貰えるように企画したいと思っています。

2026年度は10月17日(土)に開催予定です。

皆さまの参加をお待ちしております。



開催日	10月18日～10月19日
開催地	松阪市
SWR	—

総参加者数	189人
チー ム	2チーム
サバイバー	33人
総 収 入	857,563円
実 行 経 費	261,147円
寄 付 総 額	596,416円

## 滋賀県 大津市

滋賀医科大学実行委員会

### 学生の想いがつなぐ輪 — 滋賀医科大学 RFL イベント開催報告 —

実行委員長  
藤原 りこ

10月11日、12日に滋賀医科大学にてRFLイベントを行いました。日本初のカレッジリレーとして2016年に開始した滋賀医科大学でのRFLも、今年で10年目という節目の年を迎えました。ほんの数年前までは数十人だった実行委員会も、多くの新しい仲間を迎えて、今年度は総勢45人で活動してきました。人数は増えましたが、皆サバイバーの方々に喜んでいただきたいという思いのもと活動してきました。

イベントでは、昨年お越しいただいた方や他地域のRFLイベントでお会いした方、Zoomで行った交流会「かたりば」にご参加くださった方と再会することができたり、新しくお会いした方とお話できたりと、皆さまとの繋がりを実感することができました。皆さまにも、想いを共有する温かな時間を過ごしていただけたら、大変嬉しく思います。

学生のための運営で至らないところも多々ありましたが、「学生だからこそできること」を大切に、今後もこのカレッジリレーを繋いでいきます。このイベントを通して、サバイバーやケアギバーの方が互いの想いを分かち合い、つながりの輪が広がっていけば幸いです。

最後となりますが、温かいご支援ご協力をくださり共にイベントをつくってくださった皆様に、心より感謝申し上げます。来年もまた滋賀医科大学でお会いできることを楽しみにしています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



開催日	10月11日～10月12日
開催地	滋賀医科大学
SWR	9月12日～10月12日

総参加者数	434人
チー ム	31チーム
サバイバー	42人
総 収 入	1,665,612円
実 行 経 費	383,200円
寄 付 総 額	1,282,412円

## 京都府 長岡京市

京都実行委員会

### 雨天でも広がった支え合いの輪

SWR担当  
山下 恵美子

2025年のRFL京都は、長岡京市パンピオで開催されました。雨天のため施設内のみでの実施となりましたが、多くの参加者・ボランティア・協力企業の皆さまに支えられ、温かな雰囲気の中で無事に開催することができました。

開会式では長岡京市長からご挨拶をいただき、京都府や企業各社の協力を通して、地域に根ざした支援の広がりを改めて感じる機会となりました。プログラムでは、グローバル・ヒーローズ・オブ・ホープの徳永雄哉氏がミニ講演「脳腫瘍という教科書」を行い、ご自身の経験に基づいた言葉が多くの参加者の心に深く響きました。

「かたりば」では、サバイバーやケアギバーがそれぞれの想いを丁寧に語り合い、涙や笑顔が自然と生まれる安心感に包まれた時間となりました。日頃口にできない気持ちを共有し、お互いを支え合うRFLならではのつながりが感じられました。

ルミナリエセレモニーでは、バッグに詰められた想いととも灯りがともされ、大切な人への追悼や今も闘う人への祈りが静かに広がりました。雨の中でも消えない光は、会場に深い感動を残しました。

オンラインウォーク企画「SWR」にも多くの方が参加し、今年も無事に目標を達成しました。ご参加・ご支援くださった皆さまに心より感謝申し上げます。RFL京都は来年も、がんと向き合う人々を支える場としてより良い開催を目指してまいります。

## 大阪府 貝塚市

泉州実行委員会

### 雨に始まり、雨に終わる

2025年実行委員長  
板東 雅美

2025年のRFL泉州は、貝塚市役所前、緑の市民広場で10月25日～26日、夜越えをし皆様をお迎えしました。まず無事に最後まで開催できました事をご参加いただいた皆様、ご協賛、募金いただいた皆様にお礼及び感謝申し上げます。

開会式の時間前に雨がぼつぼつと降り、吹奏楽の演奏場所を急遽変更したりとハプニングでスタートいたしました。少しの雨で、ファーストラップには止んでよかったです。沢山の方がトラックを歩いているのを見ると、始まった!!がんばるぞ～と気持ちが引き締まりました。RFL泉州は夜越えいたします。夜は参加者がぐっと減ってしまいますが、それはそれで静かな中、ルミナリエを一つ一つ見ながら歩いたり、ゆったりした時間、故人を思い歩くのも毎年の楽しみです。夜に参加したことのない方、ぜひ来年は来てみていただけるとお昼と違うRFLが感じられますよ。お待ちしております。

来年は、15回の節目の年です。もっとこの取り組みを皆様に知ってほしい。がんには2人に1人が生涯に罹患すると言われています。もっと沢山の方に興味をもっていただき、がんについて考えたり、知識をもっていただきたいです。検診の受診もしっかりお伝えしていきたいです。何かできることがないか。来年に向けて考えていきたいです。

来年も開催予定です。今年の笑顔をつなげていきます。皆様とまたお会いできる事を楽しみにしております。



開催日	10月25日
開催地	京都府長岡京市
SWR	10月25日～11月24日

総参加者数	190人
チー ム	9チーム
サバイバー	34人
総 収 入	605,256円
実 行 経 費	159,054円
寄 付 総 額	446,202円



開催日	10月25日～10月26日
開催地	貝塚市役所前 緑の市民広場
SWR	10月1日～10月31日

総参加者数	450人
チー ム	24チーム
サバイバー	19人
総 収 入	974,885円
実 行 経 費	749,719円
寄 付 総 額	225,166円



## 大阪府 大阪市

大阪あさひ実行委員会

### 蠶くように

事務局  
久保田 一男

みなさんの知恵を我々に寄付してください。

街頭などで啓蒙・周知活動のためにRFLのチラシを配布するとき、ほとんどの方は理解できないままバッグにチラシをしまい込み、通り過ぎる。1000枚配って1人ぐらいいは興味を持つのだろうか？周知・啓蒙活動はとても非効率であるが、何か良い方法はないものだろうか。

RFLのことを短い時間で簡単にうまく説明できない。RFL会場に訪れた方に話しかけてウォークコースと一緒に歩いて話すと、会場の雰囲気と相まって良い説明になることを覚えた。しかし会場に来られる方は、そもそもがん患者支援・がん対策に興味を持っているか、もしくは関係者が多い。あちらこちらの会場に訪れる関係者は、同じ人が寄付を重ね、紫色の同じリストバンドをいくつも持っている。一般の方にも広げて興味を持っていただくことは極めて難しい課題である。

大会では一般市民が参加しやすい工夫を行う。参加できる舞台、無料参加、年間で参加できる催し物、がんサロン、ランチ会、ライトアップ、募金箱やチラシの設置、お笑い、ウォークイベント、スポーツ大会、実行委員会のテーマ曲、プロモーションビデオ、広報等。

最も重要なことはがん患者とその家族を支援し、がん対策活動を世の中に深め、がんで苦しむ人が誰一人取り残されない世界にすることである。そのために再び来年も我々は活動を始めていく。まるで小さな虫が蠶くように。



開催日	10月12日～10月13日
開催地	大阪市立旭区民センター
SWR	—

総参加者数	600人
チー ム	25チーム
サバイバー	60人
総 収 入	574,577円
実 行 経 費	71,434円
寄 付 総 額	503,143円

## 兵庫県 芦屋市

関西(芦屋)実行委員会

### 全てはがん征圧のため、 がん経験者・ご家族・ご遺族のために

実行委員長  
城村“KUMA”勉

RFL芦屋の会場は、がん経験者も、ご家族・ご遺族も、支援者も一堂に集まって今を祝い、偲び、立ち向かうことができる場所。

19回目の今年も会場では、、、  
個人で、チームで思うままに歩く人、  
シンボルトасキをつないで走る人、  
参加者を夜通し応援する人、  
来場の証にフラッグに手形を押す人、  
大切な人にメッセージを書く人、  
今の不安や想いを吐露しに来る人、  
旅立たれて人をともに偲ぶ人、  
芦屋での再会を楽しむ人、  
そして、、、

この場所で、私たちは歩きはじめた。  
この場所で、私たちはあなたと再会する。  
この場所は、いつもあなたと ともにある。



開催日	9月6日～9月7日
開催地	芦屋市川西運動場・体育館
SWR	—

総参加者数	1,600人
チー ム	30チーム
サバイバー	100人
総 収 入	3,558,203円
実 行 経 費	2,953,203円
寄 付 総 額	605,000円

## 兵庫県 神戸市

神戸実行委員会

### 雨ニモマケズ風ニモマケズ 無事開催できました！

事務局長  
大山 真弓

神戸の夜越えイベントは、前日の準備こそ好天に恵まれたものの、大雨と風で気象条件的には厳しいものになりました。予定していたボランティアさんや、サバイバーさんが来られず参加人数が少なかったのは、オール屋外開催の神戸の課題なのかもしれません。

そんな荒天でも、走り続けてくださったランナーさん、ウォーク参加者さん、雨の中笑顔でがんばってくださったボランティアさん、語らいサロンのテントでお話くださったサバイバーさん、温かい気持ちで音楽を届けてくださったミュージックバトンの出演者さん…参加されたみなさんのおかげで、お互いを声をかけ合い、労わりあいながら、笑顔あふれる場所を作ることができました。

サバイバーである私にとって一番心に残ったのは「語らナイト」でした。お一人は、闘病中の写真を使ったスライドを用意してくださり、もうお一人は後悔の残る辛い経験を乗り越えて、今を精一杯行きる気持ちを話された後、素晴らしい歌を聞かせていただきました。もっとたくさんのサバイバーさんに会場で聞いていただきたかったです。

企画していたティラノサウルスレースが雨で中止となり、ゆるキャラたちもいつもなら子どもたちと一緒に遊べたのに出番が少なかったのも心残りですが、来年のRFL神戸でリベンジします！

また来月6月！神戸みなとのもり公園でお会いしましょう！！



開催日	6月14日～6月15日
開催地	神戸市
SWR	6月14日～7月14日

総参加者数	800人
チー ム	25チーム
サバイバー	40人
総 収 入	1,937,816円
実 行 経 費	1,723,828円
寄 付 総 額	213,988円

## 和歌山県 和歌山市

わかやま実行委員会

### 2025わかやまの一年をふりかえって。

実行委員長  
富士 希

2025年、本年も「リレー・フォー・ライフ・ジャパンわかやま」を無事開催することができましたことを、ここにご報告申し上げます。あわせまして、一年間を通じてご支援・ご協力を賜りましたすべての皆様に、心より御礼申し上げます。

本年の開催は、天候不良により度重なる時間変更を余儀なくされ、参加者の皆様には大変なご心配とご迷惑をおかけ致しました。しかしながら「一日でも、この日をサバイバーと共に過ごしたい」という思いを胸に、実行委員一同で協議を重ね、開催に踏み切る運びとなりました。

プログラムは短縮となったものの、ラン・ウォークは夜を通して途切れることなく続きました。それぞれが胸に希望を抱き、新たな一歩を刻むことのできた時間であったと感じております。

わかやまのリレー・フォー・ライフは、「会いたい人に会える 会えない人を想い偲ぶ 誰かを想い歩き走る 誰かと語り合い繋がれる そしてひとりではないと思える」場です。

私たちもまた原点を大切にしながら、今後も力を合わせ継続してまいります。

また本年は日本がんサポーターズケア学会学術集会関係者の皆様や全国各地より参加くださった実行委員の皆様には、心強い支えをいただきました。ここに改めて深甚なる感謝の意を表します。

来る新しい年もまた、この希望の灯を絶やさぬよう、活動を続けてまいります。



開催日	5月17日～5月18日
開催地	和歌山城公園砂の丸広場
SWR	—

総参加者数	456人
チー ム	27チーム
サバイバー	47人
総 収 入	1,319,909円
実 行 経 費	789,297円
寄 付 総 額	530,612円



## 広島県 尾道市

広島実行委員会

### リレー・フォー・ライフ・ジャパン2025広島 無事終了!!

実行委員長  
浜中 和子



開催日	9月20日、9月21日
開催地	尾道市総合福祉センター
SWR	—

総参加者数	250人
チー ム	19チーム
サバイバー	45人
総 収 入	1,436,428円
実 行 経 費	825,268円
寄 付 総 額	611,160円

## 山口県 山口市

やまぐち実行委員会

### RFLJやまぐち 10年目を迎えて

実行委員長  
國光 由美子



開催日	10月18日
開催地	山口県山口市
SWR	—

総参加者数	132人
チー ム	13チーム
サバイバー	15人
総 収 入	440,780円
実 行 経 費	219,812円
寄 付 総 額	220,968円

今年で10回目の節目の年を迎えたRFLJやまぐちは、4時間という限られた時間の中での開催となりました。短い時間ではありましたが、その分、一人ひとりの想いがぎゅっと詰まった、あたたかなりレーとなりました。

近年は参加者数の減少に不安を感じることもありましたが、今年は新たに初参加のチームが増え、初めての方と、これまで支えてくださった方々が自然に言葉を交わす中で、会場には新しいつながりが生まれました。その様子に、大きな希望を感じました。

ご参加くださった皆さま、そしてリレーを支えてくださったすべての皆さまに、心より感謝申し上げます。

本会場での開催は3年目となります。今年は多目的ホール内のみでの開催とし、限られた空間の中でも、歩く人の想いが途切れないよう、新たな試みに取り組みました。そのひとつひとつが、会場の一体感につながっていたように感じています。

閉会の時間が近づいても、多くの方がその場に残り、「今年も良かった」「また来たいです」と声をかけてくださいました。そうした言葉に支えられながら、このリレーを続けていきたいと、改めて感じています。

来年もこの場所で、笑顔でまたお会いしましょう。

## 徳島県 徳島市

とくしま実行委員会

### みんなで希望の灯りを大きく

実行委員長  
香留 美菜



開催日	6月28日
開催地	徳島市ふれあい健康館 きっかけ空間
SWR	—

総参加者数	350人
チー ム	16チーム
サバイバー	41人
総 収 入	582,541円
実 行 経 費	272,541円
寄 付 総 額	310,000円

今年の開催は梅雨シーズン真っ只中の6月28日でした。屋内開催とはいえお天気が気になります。そんなとき毎年チーム参加くださっている方が、「大丈夫。梅雨でもその日は晴れるかも知れないですよ」と声をかけてくださいました。その言葉はともにこの場所を、時間を作っていることをあらためて感じる機会となり、とても嬉しく心強い気持ちになりました。

そして開催日の前日には異例の速さで梅雨が明け当日は太陽があがりました。暑い一日にはなりましたが、空の晴れやかさとともに会場では1年振りに会うサバイバー、ケアギバーの皆さんが再会される様子や新たな出逢いの様子が輝きました。

また、医療者の皆さん、行政や企業の皆さん、大勢の学生ボランティアの皆さんとそれぞれの立場を超えて語り合うことを通して、みんなで希望のあかりを灯すことが出来たのではないかと感じています。

今年は、県外リレーヤーの皆さんもたくさん足を運んでくださいました。とくしま会場で、仲間の輪を拓けてくださるリレーヤーの皆さんのすごさに感動し、安心し、当日はあっという間に時が過ぎたような気がします。

ご支援くださった皆さまに心より感謝申し上げます。来年もまた、この場所であたたかな優しい時間をともに過ごせることを楽しみにしています。

## 香川県 高松市

かがわ高松実行委員会

### 思いを繋ぐ

事務局長  
荻生 幸裕



開催日	9月13日～9月14日
開催地	サンポート高松
SWR	8月15日～9月14日

総参加者数	402人
チー ム	13チーム
サバイバー	12人
総 収 入	1,259,191円
実 行 経 費	358,234円
寄 付 総 額	900,957円

RFLJ2025かがわ高松、8回目となる今年は9月13日（土）～14日（日）にかけて2日間の開催を無事に終え、閉会いたしました。

9月の中旬のまだ暑さの厳しい中、サバイバーの皆さん、参加者の方々の体調に気を配りながらの開催ではありましたが、救護スペースや補給水の準備、会場でご参加、ご協力いただいた皆様の温かいご支援により、イベントを成功させることができました。応援ステージでは県外の実行委員会の方々に活動への熱い思い、メッセージを講演いただき、音楽、アートパフォーマンス等、県内外から多くの方々が応援に駆けつけ盛りあげていただきました。今年はルミナリエメッセージを灯しながら屋外ステージには、地元の高校生による竹あかりのオブジェが飾られ、優しく温かい色とりどりの光が、夜の会場に集う皆さんの心を和ませ、また会場の頭上にある高松市のシンボルタワー、今年もライティングに協力いただき、皆で紫の光に包まれたタワーに高揚しました。

一人のサバイバーさんの呼びかけから始まったRFLJかがわ高松は初開催から今年で10年目の節目の年でもありました。歩みはゆっくりですが、活動を積み重ねて少しずつ県内の皆さまにも知っていただく機会が増えています。更に10年の継続を目指して、かがわ高松の良さを活かしながら実行委員会のバトンを繋いで参ります。ご支援いただきました皆様、本当にありがとうございました。



## 高知県 高知市

高知実行委員会

### 「みんなあの集える場所として」

事務局長  
小野川 雅英

新型コロナウイルス感染症も完全には収束せず、参加者が年々減少していく中ではありましたが、毎年参加を楽しみにしてくれるサバイバーやその支援者の方々、この活動に賛同してくれた新しい仲間の協力のもと、延べ750名の参加者を得て10月4日、5日と春野総合運動公園にて18回目となるRFLJ高知を開催しました。

開催にあたり様々な形でご支援いただきました企業・団体、関係機関の皆様に改めてお礼申し上げます。

「高知の良さはルミナリエバックの灯」と日本対がん協会のスタッフ・パートナー時森さんに言われた言葉を頼りに、今年も活動に賛同して頂ける方にメッセージやイラストを描いてもらいました。著作権の問題からイラストの内容が制限されるなど新たな問題も発生したので、次年度以降の改善を期待しています。

高知での新しい取り組みとしては、積年の課題であるサバイバーの参加者を増やし、参加してよかったと思ってもらえるよう、サバイバーやその支援者の交流の場を分かりやすく提供しようと場所と時間を設定しました。事務局の不利に十分なおもてなしができず、ご迷惑をおかけしたとも感じていますが、継続していきたいと思っています。

実行委員やボランティアスタッフ一同、この活動ががん征圧への一歩となり、明日への希望と勇気を生み出すものになると信じ、地道に活動を継続していきたいと願っています。



開催日	10月4日～10月5日
開催地	高知県立春野総合運動公園
SWR	10月1日～10月31日

総参加者数	750人
チーム	20チーム
サバイバー	22人
総収入	1,934,435円
実行経費	1,469,435円
寄付総額	465,000円

## 福岡県 福岡市

福岡実行委員会

### 決して諦めない不屈の心と 明日への希望

実行委員長  
簗原 正己

第17回目も無事終了いたしました。これも福岡県知事、福岡市長を始め福岡県、福岡市、福岡県医師会、多くの企業、参加者の皆様、ボランティアの皆様、また会場を提供していただいた福岡女子大学へ深く感謝いたします。

今年のスローガンは ☆決して諦めない不屈の心と明日への希望☆ この思いでがん患者、その家族、医療者は頑張っています。また私たちは信じるものがあるから歩み続けます。

ステージでは香住丘高校の吹奏楽部の素晴らしい演奏、宇美商業高校太鼓部のパワフルな演奏、熊本大学より神力先生の講演、キューティーズとグランチアの皆様によるチアダンス、プレストアートメイク、さくらもちオールスターズのパフォーマンス、ケアギバートーク、サバイバーズトーク、クラウンシロップのパフォーマンス、清水治さんによるライブ、恒例のチャリティーオークション、そして最後にステージ前に参加者全員が集まっての「ルミナリエセレモニー」と盛りだくさんでした。

昨年この会場でエンプティテーブルテーマソング「今日だけは、この場所で」を披露していただいたインスハートのお二人は、今年は一般参加者として様々な想いを胸に抱きウォークをしてくださいました。

今年も皆様のおかげで「命のたすきリレー」を繋げることができました。来年も多くの方々にご参加いただき、「がん」に負けない社会になるよう実行委員会一同願っております。



開催日	10月19日
開催地	福岡女子大学
SWR	—

総参加者数	593人
チーム	25チーム
サバイバー	55人
総収入	737,153円
実行経費	162,517円
寄付総額	574,636円

## 佐賀県 佐賀市

佐賀実行委員会

### ゲリラ豪雨を乗り越えて迎えた RFLJ2025佐賀

事務局長  
木下 博和

このたびは、RFLJ2025佐賀の開催にあたり、多くの皆さまにご参加・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

例年の酷暑に配慮し、16時開始とするとともに、どんどんの森公園（屋外）とアバンセホール（屋内）の併用開催を予定しておりました。しかし、開催直前のゲリラ豪雨により、安全を最優先に判断し、やむを得ず会場をアバンセホールのみに変更し、内容を縮小しての実施となりました。

ホール内では、サバイバーズトークや啓発講座、エンプティテーブルセレモニー等を行い、がんと向き合う想いや命の大切さを共有する時間となりました。会場を集約したことで、参加者と登壇者の距離が近く、一体感のある催しとなりました。

準備や後片付け等でご負担をおかけする場面もございましたが、皆さまのご理解とご協力により、無事に開催できましたことを心より感謝申し上げます。来年度以降も今回の経験を活かし、より安全・安心な運営に努めてまいりますので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

これからも、実行委員の皆さまによる「でくっしこ」の精神で取り組んでまいります。来年のRFLJ2026佐賀で、再び皆さまとお会いできることを楽しみにしております。



開催日	10月4日
開催地	どんどんの森・アバンセホール
SWR	—

総参加者数	300人
チーム	27チーム
サバイバー	70人
総収入	2,153,332円
実行経費	1,744,632円
寄付総額	408,700円

## 熊本県 熊本市

くまもと実行委員会

### 悲しみも包み込んだ思いを伝えたい

実行委員長  
山本 宏子

第15回のイベント開催を迎えた熊本。しかし、今回は悲しくも寂しい気持ちが実行委員全員の胸の内にありました。立ち上げメンバーの吉川俊治さんが2月に急逝されたのです。RFLの開催に向けてのノウハウは吉川さんから教わったのです。実行委員会の中心的存在の彼の存在は頼もしく安心をもたらしてくれました。沢山の方々を私たちに紹介してくれる橋渡しもしてくれました。治療中の癌ではない、余りの突然のサヨナラに「エッ…」と。今迄にも沢山の仲間を見送りましたが今回は私個人としても、おそらく実行委員は皆同じ。

これからも、沢山の方々との繋がりを大事に、もっともっと心に寄り添い、穏やかに治療や大変さを自然にお話でき、空にいった家族や仲間の思い出を聞ける場所としてのRFLを続けていなくては…と思いました。

連休明け、全国の一番手のイベント開催を実施してきましたが、2026年は5/16・17の24時間開催の予定です。沢山の笑顔お待ちしております。



開催日	5月10日～5月11日
開催地	熊本市中央区 白川公園
SWR	—

総参加者数	661人
チーム	39チーム
サバイバー	94人
総収入	1,558,610円
実行経費	913,927円
寄付総額	644,683円



大分県 大分市

大分実行委員会

雨のち晴れの大分大会

実行委員長  
荒金 健司

去る10月25日(土)から26日(日)にかけて、「RFLJ2025大分」を開催いたしました。

おかげさまで、38チーム、3,348名の方にご参加いただくとともに、実行委員25名、ボランティア21名のスタッフに支えられ、無事に開催することができました。

今年で第18回目となる大分大会は、毎年のように雨に見舞われています。「お約束」のように今回も初日は雨となりましたが、2日目は嘘のように晴れ渡り、恒例の「朝のラジオ体操」の時には、澄み切った青空がまぶしく広がっていました。

雨に打たれながらも夜通し歩みを止めなかった参加者の皆様の想いが通じたかのような天候の回復は、まさに苦難の先にある「希望」そのもののようでした。その光景に、会場全体が感動と達成感に包まれたのではないかと思います。

また、コロナ禍で途切れていた「ステージイベント」も再開することができ、大会に華を添えることができました。

全国の皆様の皆と共に、これからも「がんで苦しむことのない社会」を目指し、歩を進めてまいりたく存じます。最後になりましたが、大会へのご協力、ご支援をいただきました皆さまに、心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



開催日	10月25日～10月26日
開催地	大分スポーツ公園大芝生広場
SWR	10月25日～11月24日

総参加者数	3,348人
チーム	38チーム
サバイバー	68人
総収入	3,144,163円
実行経費	1,130,417円
寄付総額	2,013,746円

大分県 中津市

中津実行委員会

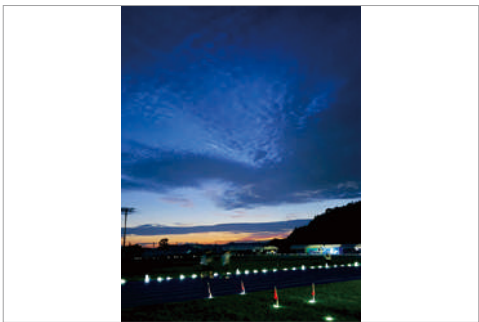
第4回大会も無事に終了しました

実行委員長  
福山 康朗

2025/10/4～10/5今年も夜越えのRFLを無事開催できました。

雷を伴った線状降水帯が近づく中、スタートを早めての開催となりました。開会宣言をすると同時にサバイバズラップを開始。スタートの合図とともに遠くで稲光が…。何とか最初の1周を終えたところで雨が降り出し、ウォークを中断。雷鳴を聴きながら雷雲が去るのを待つこととなりました。テントの中は危ないらしく車や施設に避難し、待つこと2時間。雨は続いているものの、雷鳴が去ったと判断しウォークを再開しました。ステージが始まる頃には雨もやみ、恒例の子供神楽に始まり、読み聞かせ、歌、バンド演奏、クイズ大会など無事に予定をこなすことができました。エンブティテーブルが終わるころから再びぽつぽつと降り出し、夜中は一時豪雨となりましたが、参加者の歩みは止まることなく続きました。

総参加人数は818人、寄付総額はセルフウォークを含め、今年も100万円を超えました。ご協力いただいたすべての方に感謝して、また、来年への準備を始めたいと思います。



開催日	10月4日～10月5日
開催地	三光総合運動公園
SWR	10月1日～10月31日

総参加者数	818人
チーム	10チーム
サバイバー	20人
総収入	1,007,648円
実行経費	148,643円
寄付総額	859,005円

沖縄県 那覇市

おきなわ実行委員会

つながるRFLJ

RFLJおきなわ実行委員  
まじま なおこ

11月8日から9日にかけて「RFLJ2025おきなわ」が無事に閉会した。今年も2日間にわたって沖縄大学で開催した。来場者は600人。

会場には、ルミナリエの光の間を歩いたり、ブースを見たり、講演を聞いたり、人々が途切れることなく訪れ、温かさが満ちていた。

「ルミナリエのメッセージを書きたいのですが、明日、会場へ行ってからでも間に合いますか」そんな問い合わせがInstagramに届いた。いつでもどうぞ、と返信すると、送り主は当日の夕方、会場に現れた。医療の道を選ぶきっかけとなった大切な人をしのび、その人への感謝をルミナリエに記したい、という。言葉を一つ一つ確かめるように書き進めていた。

「昨日このことを知って、どうしても参加したくなって」と語る姿に、思いの深さを感じた。

仕事の関係で「深夜ならばボランティアをしたい」と来られた人もいた。小さなお子さんがいて、会場には来られないからと、自宅でルミナリエを作り、郵送してくれた家族もいる。また、遠方からラジオ放送にメッセージを寄せてくれた人もいた。

場所や時間は違っても、それぞれの思いが、まるで見えないバトンのようにリレーされ、つながっていくのを感じた。

ルミナリエに込められたひとつひとつの願いと、支えてくださる多くの方々の心に深く感謝したい。灯りがつなぐ思いが、これからも誰かの力になりますように。



開催日	11月8日～11月9日
開催地	沖縄大学アネックス共創館
SWR	10月10日～11月9日

総参加者数	600人
チーム	5チーム
サバイバー	90人
総収入	911,601円
実行経費	807,658円
寄付総額	103,943円

これまで全国のボランティアの方々と作り上げてきました



参加者総数  
83万人



参加したサバイバー数  
50,394人



参加したチーム数  
18,075チーム



SWR総歩数  
40億歩



プロジェクト未来研究助成数  
195件



寄付総額  
15.4億円

(2026年1月現在)※数字はおよその延べ数







## 2025 特別協賛



※五十音順

がんで苦しむ人や悲しむ人をなくしたい



日本対がん協会公式HP

<https://www.jcancer.jp>



リレー・フォー・ライフ・ジャパン  
公式HP

<https://relayforlife.jp>



リレー・フォー・ライフ・ジャパン  
公式Facebook

<https://www.facebook.com/RelayForLife.Japan>